



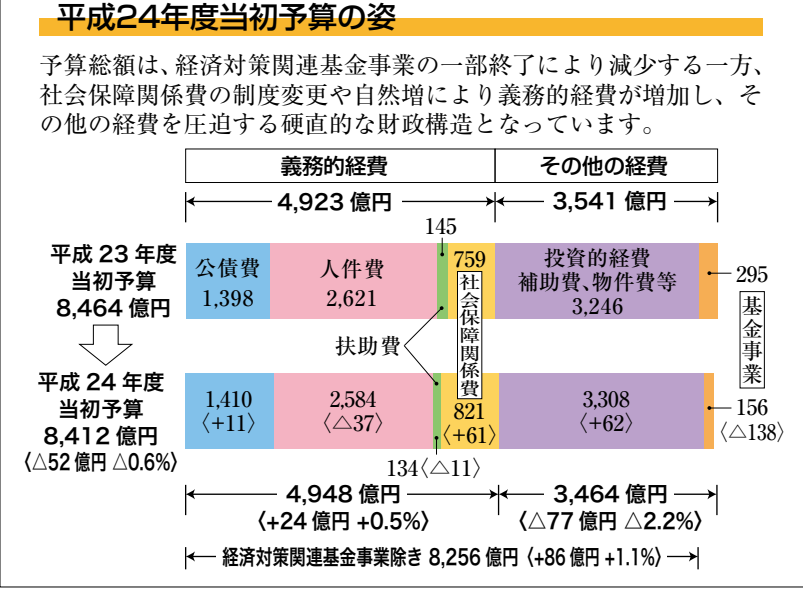
発行・編集/改革・新風
 長野県庁県議会棟内(026)232-0087
 発行責任者 倉田 竜彦 印刷所 中外印刷KK
 http://www.kaikaku-shinpuu.com

二月定例県議会 寺島副代表が代表質問 一四年度予算を可決

2月17日に開会した定例県議会は、3月13日の本会議で議案の採決を行い、総額8412億円の2012年度一般会計当初予算案、特別職の職員等の給与に関する条例の一部改正する条例案など、県側提出の計87議案を原案通り可決しました。県債発行額を前年度当初予算額の範囲内に抑制し、財政健全化に努めた予算編成となっています。



一般質問に先立ち、各会派の代表質問が行われ、今回、改革・新風は寺島義知事に対し、然自若とした県政運営に当たるとの要望がありました。主な知事との質疑応答は以下の通りです。



会派としての事業評価(事業仕分け)試行

去る2月14日、「改革・新風」は独自に県事業を対象にした「事業評価」を長野市で実施しました。当会派に所属する県議が3班に分かれ「信州型事業仕分け」を経験した県民委員らと共に「事業評価人」を務めました。今回対象となったのは次の3事業。各事業に仕分け人から出された意見は次のとおりです。

- ①スノーリゾート信州**
 政策議論を踏まえて再構築すべきだ
 ・スキーにこだわらず
 ・個別の事業についてももう少し工夫すべきだ
 ・雪を活用したリゾート地としての質的、量的な大改革が必要
 ・アジア大移動の時代という認識に立ち戦略を組み直すべきだ
- ②高齢者・障害者にやさしい住宅改良促進事業**
 県下全ての市町村がこ
- ③学力実態調査**
 ・本事業の周知、PRをしっかりとすべき
 ・全校が参加できる方向で努力すべき
 ・まだまだ改善すべき余地が多く、大いに期待している
 ・全国であまり例のない県独自の事業で担当者熱意が感じられ効果も上がっていると感じる



急輸送路の重点的整備など、防災、減災対策の強化など、いずれも地域の活力、長野県の強みをさらに発展させていく。

●危険管理、防災対策について長野県地域防災計画に「原子力災害対策編」が新設されたが、実行にあたっては、今後どのように市町村と連携協力していくのか。

●A 先般、地域防災計画に新設した「原子力災害防災対策編」は、本県が取り組む原子力災害対策の第一歩として基本的な方針を示したもので、今後、計画を具体的に推進していくために、県、市町村の役割に応じた具体的な対応に関するマニュアル等の整備を進めてまいりたい。しかしながら、国の防災対策の見直しにおいて、方向性がまだ不明確な部分があるのか。

●A 質の高い県民サービスを継続して提供するため

●持続可能な財政構造の構築

●抜本的な見直しによる施策の重点化

●将来負担の抑制による財政の健全化

●3点を指して財政改革を進めていく。

●産業振興について厳しい経済状況の中、将来を見据え、長野県の活力の源である長野県産産をどのように導いていくのか。

がん制圧対策先進地視察

日本人の死因の第一位はがんです。「がん対策推進条例(仮称)」制定に向けてがん治療の最先端医療施設である京都大学病院がんセンターを視察してきました。

京都大学病院がんセンターは、がん治療に係るすべての科がそろっています。がん治療は薬の副作用などで皮膚炎になったり、心臓病が併発するケースがあるので、皮膚科や心臓外科など、がん治療に関わる全ての治療に対応できるようになっています。その他看護師、薬剤師、心理士などによるチーム医療も充実しています。「がん対策推進条例(仮称)」制定の参考としていきます。



県政対話集会

「改革・新風」の県議14名から自己紹介を行い、その後、対話形式で進められ、参加者から多くの地域の課題について質問や要望、意見が出されました。

参加者から「東御市内にはダムが2つある。大地震を受け、ダムの安全性について考えを聞きたい」という質問が出されました。県議側は「県営ダムなので安全性についてはしっかり報告していく」と答えました。その他、消費税、県の産業、県の道路網に対する交通ビジョン、教育、放射能の問題など多岐に渡り質問や要望が出されました。対話集会終了後、参加者からは「とても良い試み。また開いてほしい」との声がありました。対話集会は昨年秋に塩尻市で開き、本年度は東御市で2回目の開催でした。

